

高知県浦尻川で採集されたイザナミツノヤドカリ

滝山直人¹・京谷蒼馬¹・山川宇宙²

¹ 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋資源環境学専攻

² 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻



写真1 *Diogenes izanamiiae* Asakura, 2006
イザナミツノヤドカリ (TKPM-AR 3577)

種の記録

Diogenidae ヤドカリ科

Diogenes izanamiiae Asakura, 2006

イザナミツノヤドカリ(写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3577, 1 個体, 性別不明, 前甲長 2.3mm, 浦尻川 (高知県土佐清水市浦尻), 2026 年 1 月 7 日, 京谷蒼馬採集。

種の特徴

検討標本は、眼柄が細く、基部がごく僅かに膨らむ。鉗脚は剛毛に覆われ、掌部には棘列を有する。左鉗脚の可動指と不動指は湾曲しており、2 指の間に隙間を生じる。歩脚は中程度の剛毛に覆われ、指節は前節よりも僅かに短く、腕節背面の遠位縁に棘をもつ。色彩は、全体が淡い茶褐色で、歩脚各節に不明瞭な暗色帯を有する。眼柄には末端から基部にかけて褐色の縦線をもつ。第 1 触角の外肢および内肢は橙色。以上の形態学的特徴が、Asakura (2006) と吉郷 (2022) のイザナミツノヤドカリの特徴とよく一致したため、本種に同定された。

備考

本種は日本固有種で、田島 (広島県)、泉州地域 (大阪府)、田辺湾 (和歌山県)、隠岐 (島根県)、九

十九湾 (石川県) から記録されている (Asakura, 2006; 大澤ほか, 2014; 柏尾ほか, 2016; 古賀ほか, 2018; 山田・和田, 2018; 吉郷, 2022)。よって、本研究は本種の四国地方初記録および南限記録となる。検討標本は、感潮域の砂礫混じりの泥底で採集された。今回得られた個体は 1 個体のみであり、再生産や定着しているかは不明である。

謝辞

検討標本の登録を行っていただいた徳島県立博物館の鈴木佑弥学芸員に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Asakura A. 2006. Shallow water hermit crabs of the families Pylochelidae, Diogenidae and Paguridae (Crustacea: Decapoda: Anomura) from the Sea of Japan, with a description of a new species of *Diogenes*. Bulletin of the Toyama Science Museum, (29): 23–103.
- 柏尾 翔・花崎勝司・児島 格・山田浩二・大島麻里・大古場正・松岡 悠・大谷道夫. 2016. 岸和田市阪南 2 区人工干潟における魚類および貝類, 甲殻類相について (2009 年度–2014 年度の調査記録). きしわだ自然資料館研究報告, (4): 1–13.
- 古賀庸憲・青木美鈴・香田 唯・渡部哲也. 2018. 田辺湾の干潟生物の変遷: 環境省モニタリングサイト 1000 干潟調査データの解析. 地域自然史と保全, 40(1): 129–141.
- 大澤正幸・桑原友春・吉田隆太・倉田健悟. 2014. 島根県沿岸の異尾甲殻類. ホシザキグリーン財団研究報告, (17): 207–236.
- 山田浩二・和田太一. 2018. 二色の浜のアマモ場の生物調査 (2015 年). 貝塚の自然, (19): 35–38.
- 吉郷英範. 2022. 広島県から記録があるヤドカリ科とホンヤドカリ科 (甲殻類, 十脚目). 比婆科学, (274): 19–28.

(2026 年 1 月 27 日受付, 2026 年 1 月 29 日公開)

連絡先: 滝山直人 (e-mail: tkym7hermit@gmail.com)
(Naoto Takiyama, Soma Kyotani and Uchu Yamakawa. 2026. *Diogenes izanamiiae* (Diogenidae) collected from the Urajiri River, Kochi Prefecture. NS Fieldnote, 26008)